

令和3年度 手作り教材集

<ご覧の皆様へ>

この教材集は、千葉市立第二養護学校の若年層職員研修会「さわやか研修会」にて、自作教材の紹介をまとめたものです。

個人情報の取り扱いには注意をしておりますが、ご覧になられる方もモラルをもってご活用いただけますようお願いいたします。

1、同じのどーれだ！（日常生活の指導）

2、今日の楽しみ（日常生活の指導）

3、ミスタースイッチ1号（日常生活の指導）

4、巨大コリントゲーム（生活単元学習）

5、どこでも見通しボード（生活単元学習）

6、乗り物カード（ことば・かず）

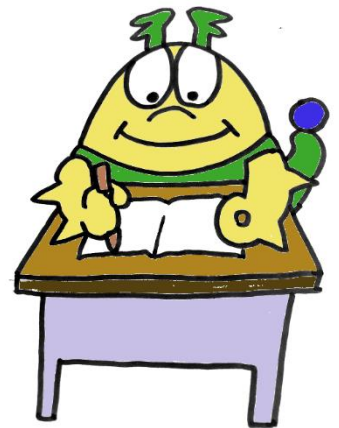
7、二語文マッチング（ことば・かず）

8、バランスボード（体育）

9、とんぼのメガネ～いろいろなメガネをつけてみよう～（音楽）

10、いろいろ感触絵本（自立活動）

11、ナットまわし（自立活動）



教材名

「同じのどーれだ！」

- 作成の目的
- ・平仮名、片仮名の読み書きはできるが、集中力が続かず、手元を見ないで課題に取り組む様子が見られる児童に対しての教材を作りたいと思った。
 - ・文字をよく見ないとできない課題を作りたいと思い、作った。
 - ・文字に興味がある児童が、楽しみながら課題に取り組めるようにした。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点

◎課題前



◎完成



◎課題の様子



〈使い方〉

- ① シール（イラスト＋文字）が貼られた縦5マス×横6マスのケースの中に、同じシールが付いているペットボトルキャップを入れる。
- ② はめていく段階で、文字を読みながらシールに付いている名称を1つずつ確認したり、全部入れ終わってから名称を確認したりする。
※実態に合わせて読み方は変えていく。

（工夫）

- ・シールの柄はデザート、動物、顔の表情など難易度を変えて3種類用意した。
- ・ペットボトルのキャップは、シールが見やすいように全て白色で統一した。
- ・終わりが分かりやすいと、意欲をもって取り組める児童なので蓋付きのケースを用意したり、キャップがぴったりはまるケースにしたりした。
- ・デザートや動物のシールは難易度を変えるため、3、4文字の名称がつく物を用意した。（アルパカやカワウソ等）

（使用感・改善点）

- ・文字が小さいため、よく見ながらマッチングすることができた。
- ・最後に「できたー！」と蓋を閉めて終わりが分かりやすそうにしていた。
- ・今後、キャップに貼り付けるものを平仮名、片仮名の文字を一文字ずつのものにしたり、イラストなしの名称にしたりするなど、実態に合わせて工夫できると思う。

＜他に活用できそうな教科領域および場面＞

- ・ことば・かず
- ・自立活動

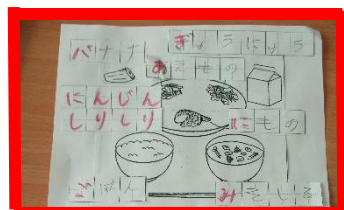
教材名

「今日の楽しみ」

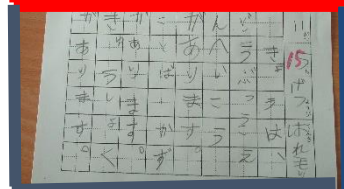
作成の目的 ・平仮名、片仮名の読み書きはできるが、耳から聞いて文字にすることが多いため、間違えて覚えていることがある。言葉を正しく書いたり、読んだりできる課題を作りたいと思って作った。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



赤枠



青枠



(使い方)

- ① プリントを見ながら次の日の献立を貼る。
- ② 献立表を見ながら、視写する。(赤枠)
- ③ その日の楽しみなこと、書きたいことを書く。(青枠)

(工夫)

- ・メニューを予測しやすいように頭文字を書くようにした。
- ・見られないメニューの時はペンで事前に見本を示した。
- ・児童が書く言葉の給食カード(献立に貼るカード)を毎月難易度を上げるために、分類をさらに細かく分けて増やしていった。

(使用感・改善点)

- ・イラストを見ながら給食のメニューを書くことで、普段読んだことのないメニューも積極的に声を出して読む姿が見られるようになった。
- ・ことば・かずでも助詞の学習をし連動させることで、正しく助詞を使いながら文を作ることができた。
- ・毎日繰り返し行うことで、1日の予定の中で楽しみなことを予定ボードを見ながら書いたり、給食のメニューが楽しみな日は給食への想いを書いたり文を作るのが上手になってきた。
- ・色がなく寂しいので、時間があるときは塗り絵として、カードを見ながら同じ色も塗ることができた。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

- ・ことば・かず
- ・自立活動

教材名 「ミスタースイッチ 1号」

作成の目的 ・「光る」、「音が鳴る」という反応で因果性に気付くことができるように作った。
・スイッチを通して手指の操作や目と指先の協応を促すことができるようにした。

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点

（使い方）

- ① 教師が指差ししたスイッチを押したり、捻ったりする。
- ② それぞれのスイッチの仕組みが分かったら自由に行う。それぞれのスイッチによって光り方や音の鳴るところの違いなどに注目させる。

（工夫）

- ・「光る」や「音が鳴る」などの反応や、スイッチの種類を複数取り入れ、様々な使い方ができるようにした。
- ・スイッチと光や音などの因果性に気付きやすいようにボタンを取り付けた。

（使用感・改善点）

- ・スイッチに興味をもち、遊び感覚で取り組むことができているように感じた。
- ・使い方が分からない、伝わらない児童でも感覚や直感で操作をすることができた。

＜他に活用できそうな教科領域および場面＞

- ・自立活動
- ・ことばかず

教材名

「巨大コリントゲーム」

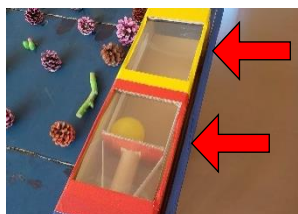
- 作成の目的
- ・毎回違う転がり方をするボールを追視し、動きを楽しんでもらいたい。
 - ・ルールのある遊びを、友達と一緒に楽しみながら取り組んでもらいたい。
 - ・道具を使った遊びを楽しんでほしい。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



盤面は場所を変えることができる



赤まで引くと強い球が打てる



「O×」は剥がして移動できる



仕切りは3分割にもできる

(使い方)

- ① コリントゲームの「O」「×」が見える位置に座る。
- ② 1人ずつ、ボールを入れた発射台を引っ張り、手を離して打ち出す。
- ③ 「O」にボールが入ったら得点。「×」なら0点として取り組む。得点方法は児童の実態で変えてよい。

(工夫)

- ・みんなで楽しめるように大きいコリントゲームにした。追視が苦手な児童も大きいボールを使うので、転がってくるボールをよく見るができる。
- ・待機している児童が座っている位置からも得点が分かるように、透明なシートを活用した。
- ・「O」に入ったら1点として遊んだが、数字の勉強をしたい場合は難しいところに入ったら3点など、遊び方は多種多様になるよう仕切りの位置も移動できるようにした。
- ・発射台にセットしたボールが見やすいように、透明なシートを活用した。黄まで引くと球威が弱く、赤まで引くと球威が強くなるように工夫した。
- ・ボールを見やすくするため盤面を紺色にした。黄色のボールを使うとより鮮明に見え、追視がしやすくなる。
- ・盤面は剥がして並べ替えることができるようにした。同じコースで飽きてしまったら、入れ替えて遊ぶと新しい楽しさを味わえる。
- ・今回は秋の単元で作ったため、松ぼっくりやドングリで装飾したが、盤面を作り直せば、その季節に合った題材を取り入れて遊ぶことも可能である。

(使用感・改善点)

- ・ボールを発射するというのは、子供にとっては魅力的な活動なのか、楽しんで取り組んでいた。
- ・改善点は、段ボールがベースなので持ち運びしやすいが、壊れやすい。乱暴に扱うとすぐに壊れてしまうことが予想される。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

- ・自立活動
- ・ことば・かず(算数科)

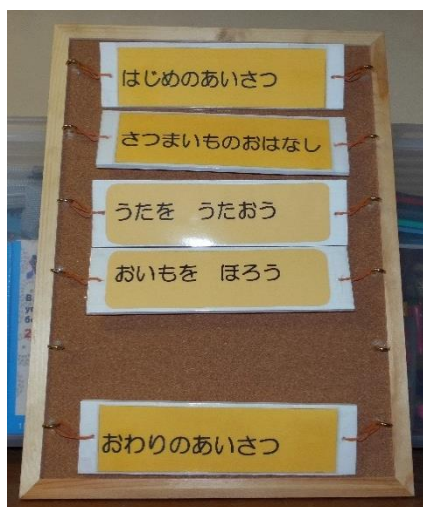
教材名 「どこでも見通しボード」

- 作成の目的
- ・マグネットで貼り付ける見通しカードの管理がしにくい、自教室ではない場所でカードを使いたかった。
 - ・子どもも触ることができる教材にし、ちょっとしたお楽しみの要素も持たせたかった。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点

<見通しボード 表>



<裏>



(使い方)

- ① 作成した見通しカードを、スチロール札に貼り付ける。
- ② 授業で活用する。

(工夫)

- ・繰り返し使うことができるように、スチロール札は透明テープで覆った。
- ・児童の実態や興味・関心に応じて「全てひっくり返したら絵が完成する」「『よ・く・で・き・ま・し・た』などの文章が完成する」など、色々工夫することができる。
- ・見通しカードを作りやすくするために、A4の紙がぴったりはまるようにスチロール板を調整した。

(使用感・改善点)

- ・コルクボードにフックを直接刺したらフックの根本がぐらぐらしてしまったので、グルーガンで補強した。土台も木の板にしたらもっと丈夫になると思う。
- ・見通しカードを「やることが終わったら、見えなくしたい（盤面から無くしたい）」と感じている児童には、向かないかもしれない。
- ・輪ゴムでフックに固定したが、使っていて緩い印象。もっと短いゴムを使うとしっかりすると思うが、コルク板が引っ張られてぼろぼろにならないか心配である。（何か良いものがあったら教えてください。）
- ・コルクボードで作ったため、耐久性がやや心配である。しかし、土台を工夫したりフックを別のものにしたりすれば、長く使えるものになるのではないかなと思う。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

- ・自立活動
- ・特別活動（係活動）

教材名

「乗り物カード」

作成の目的 ・物を手に持ち続け目的の場所に入れることや、具体物の色を判別しマッチングすることが課題である児童に対して、大型バスの教具に乗ることを楽しみにしながら、児童が意欲的に取り組めるように願って作った。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



(使い方)

- ① 大型バスに貼っているフェルトの色を確認し、同じ色のカードを児童に渡す。
- ② 渡されたカードと同じ色の箱に入れる。
(ア) 活動に慣れてきたら、箱と椅子の距離を離す。
(イ) 実態に合わせて渡すカードを、3色の中から選ぶ活動も取り入れていく。
- ③ 入れることができれば、称賛し大型バスの教具に乗る。

(工夫)

- ・色カードは児童が持ちやすいように、ジョイントマットをカードサイズにして厚みをもたせた。
- ・色に注目させたいので、ペンギン以外の情報は省き、視覚に入る情報を少なくした。
- ・色を精選し赤、黄、青の3色にした。
- ・雰囲気を楽しめるように、実際のカードを模した物や、押すと音が鳴るボタンを用意した。

(使用感・改善点)

- ・それぞれの色が分かりやすいため、目的をもって活動できた。
- ・色カードを箱に入れると、大好きなバスに乗れるという目的がはっきりしているので、児童が意欲的に取り組む姿が多く見られた。その流れて色の学習も取り入れることができた。
- ・箱に入れたことがより分かりやすいように、入ったら音が鳴る等の仕掛けがあってもよいかもしれない。
- ・色を知ってほしいのか、箱に色を分けて入れてほしいのか、ねらいを絞ったほうがよいかもしれない。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

- ・自立活動
- ・学級活動

教材名 「二語文マッチング」

作成の目的 ・言葉は出るが、「のんだ」や「やった」など単語で返す児童が、二語文で答えることができるようにしたい。

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点

（使い方）

- ① イラストを見て、複数種あるカードの中から、イラストにあった文の組み合わせを作る。

（工夫）

- ・「ぎゅうにゅうを のむ」や「ふくを きる」など日常生活の動きを表せるようにしたことで、実生活にも反映させることができるようにした。
- ・イラストと対となる文を暗記して答えないように、パターンを多くして不規則に問題を出すようにした。

【用意した文とイラスト】

- ・25パターンぐらい

（使用感・改善点）

〔良かった点〕

- 朝の活動で毎日取り組んだことから、少しずつ教師の質問に対して二語文で返答することが増えたように感じる。
- 日常生活に使う動きを取り入れたことで、活動内容をそのまま日常に生かすことができた。
- 慣れてくれば3・4語文にも生かすことができる。

〔改善点〕

- 文字が読める児童に限られてしまう。
- 名詞、助詞、動詞にBOX分けたほうがよかった。
- 裏にマグネットをつけて、ホワイトボードに貼れるようにした方が一人で取り組みやすい。

＜他に活用できそうな教科領域および場面＞

- ・自立活動
- ・ことば・かず

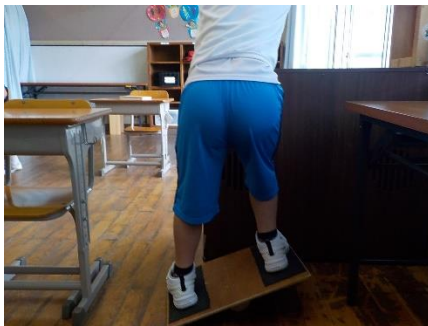
教材名

「バランスボード」

- 作成の目的
- ・片足立ちをすることが難しい児童がいたため、両足で立ちながらも、傾く板の上で片方の足で体重を支えたり、左右の体重移動の練習をしたりできるよう作成した。
 - ・「バランスを崩さない力」や「バランスを崩してもすぐに立て直すことができる力」、「左右への重心移動に対応するバランス力」を養ってほしい。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



バランスボード

(使い方)

- ① 左右の足を滑り止めマットの上に置き、右に踏み込み、左に踏み込みを繰り返す。
- ② 児童によっては、前方に支えがあると安心して取り組める。

(工夫)

- ・傾きが大きいもの、小さいものの2種類のボードを用意した。
- ・足を置く位置に滑り止めマットを貼ることで、どこに足を置いてよいのか分かりやすくした。
- ・重心を右、左だけではなく、真ん中にした状態でも維持しやすいように中央の支え部分を少し平らにして安定感を出した。
- ・大人が乗っても割れないように、厚めの板を使用した

(使用感・改善点)

- ・傾きが小さいボードを好んで使用する児童が多かった。
- ・右、左と傾けるとボードが床に当たる音が楽しく、何回も音を出しながらやっている児童がいた。
- ・支えを使用せずに両手を広げて、ゆっくり右、左と重心を移動してボードを傾けている児童がいた。
- ・足を置く位置によっては、バランスボードが不安定に動くことがあった。
- ・裸足になって使用したので、木材がむき出しになっていて、ささくれ等が気になった。やすり掛けをしたり、布等で覆ったりするとよい。
- ・左右の板が床に当たる度に傷つくのが気になったので、マットを敷くとよい。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

- ・自立活動

教材名 「とんぼのメガネ～いろいろなメガネをつけてみよう～」

作成の目的 ・歌詞や情景の変化を視覚的に楽しみながら、歌に親しめるようにと考え作成した。メガネの色の変化に気づき、とんぼの飛ぶ真似をしながら歌を楽しんでほしい。

教材等の写真添付

メガネ



背景のイラスト



実際に付けている様子



教材の紹介や工夫の要点

（使い方）

- ① 「とんぼのメガネ」の歌に合わせてメガネを覗き、景色が赤や青などに变化する様子を楽しむ。
- ② なんでもメガネ（レンズが透明なメガネ）は、青空や夕焼けなどの背景のイラストにメガネを近付けて透明なメガネのレンズ越しに色の变化を楽しむ。
- ③ 「次は何色メガネを付けたお友達が登場するのかな」と言われたら、ホワイトボードの後ろに隠れている児童が、歌詞に出てくる色の順番に登場する。

（工夫）

- ・歌詞に出てくる色と同じ赤、青、黄色のメガネを制作した。
- ・とんぼのイラストの部分と胴体の部分を同じ色を使って統一性をもたせて分かりやすくした。
- ・なんでもメガネはメガネの縁と胴体をカラフルにして持っているだけでも楽しめるようにした。

（使用感）

- ・みんな興味をもってメガネを付けて、曲を楽しむ様子が見られた。
- ・「青色のメガネが良い」と言って、自分が付けたい色を伝える児童がいた。
- ・歌詞の色の順番を覚えて、自分のメガネの色の順番が来たら自分から友達の前に登場する児童がいた。

（改善点）

- ・胴体を片面にしかつかなかったのが、両面につけると分かりやすく良かったと感じた。
- ・持ち手がないメガネや耳にかけられるメガネなどを用意しても楽しくなるのではないかと考えた。
- ・大きな鏡を用意し、付けている姿が見られると更に良いと思った。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

- ・ことば・かず
- ・図画工作
- ・生活単元学習

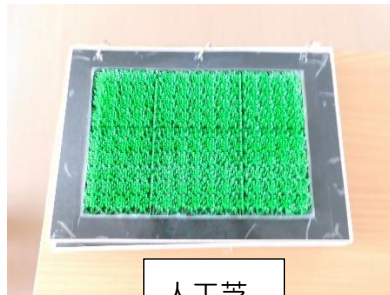
教材名

「いろいろ感触絵本」

- 作成の目的
- ・ 触覚に過敏がある児童に対して、手元を見て触る経験を増やすとともに、様々な感触に慣れることをねらって作った。
 - ・ 教室を歩き回り、何でも口に入れてしまう児童に対して、机に座って手で触れて楽しめる教材が欲しいと思い、作った。

教材等の写真添付

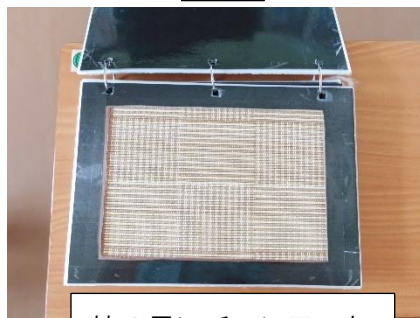
教材の紹介や工夫の要点



人工芝



綿



竹のランチョンマット



(使い方)

- ① 「ちくちくだね」などと言葉かけしながら、手のひら全体で素材に触れられるように、教師が手を添えて一緒に触る。
- ② 慣れてきたら、児童が好きなように触らせる。
(指先で触ったり、つまんでみたりしていました。)
- ③ 十分楽しめたら、ページをめくる。
- ④ ①～③を繰り返していく。

(工夫)

- ・ 「ちくちく」、「ふわふわ」、「ざらざら」など、いろいろな感触の素材を取り入れた。

【取り入れた素材】

- ・ 人工芝
- ・ 竹の素材のランチョンマット
- ・ やわらかめの布
- ・ カラー波段ボール
- ・ 紙やすり
- ・ タイルシール
- ・ 綿

- ・ 両手全体で触れる大きさにし、めくりやすいように、スチレンボードを挟んで厚めのページにした。

- ・ 素材が目に見えやすいように、枠は黒にした。

- ・ 口に入れてしまうことも想定し、なるべく消毒できるように、ラミネート加工して透明テープでカバーをした。

(使用感・改善点)

- ・ 人工芝の「ちくちく」や紙やすりの「ざらざら」は、普段触れる機会がないためか、よく触っていた。
- ・ ページ数が増えると、重さが出てしまうため、ページの精選が必要。
- ・ 木やドングリなどの自然物を入れてもよかった。
- ・ クリアファイルなどの「つるつる」、保冷剤などの「ぷにぷに」なども入れてみたいと思った。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

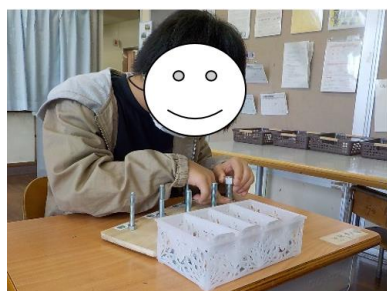
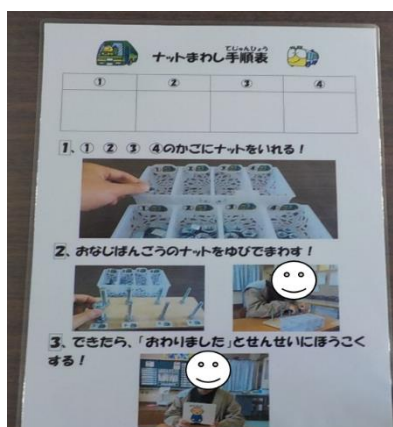
- ・ 自立活動
- ・ ことば
- ・ かず
- ・ 図画工作 (素材によっては)

教材名

「ナットまわし」

- 作成の目的
- ・手元を見て触る経験を増やすとともに、指先をうまく使って学習に取り組めるように願って作った。
 - ・椅子に座って一人で集中し、手で触れて楽しめる教材が欲しいと思い、作った。

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点

(使い方)

- ① 手順表を見ながら、今日使うナットの個数を決めて、1～4のかごに入れる。
- ② かごからナットを取り、同じ番号のボルトを見つけて回す。やり方の手本を示す。
- ③ 「終わりました」の報告を教師にする。教師と出来上がりを一緒に確認する。※報告の仕方は事前に伝えておく。

(工夫)

- ・ナットやボルトは、大、中、小の大きさを準備し、大きいものから始められるようにした。
- ・1～10程度の数字の理解がある児童なので、数字を見て個数など確認できるようにした。
- ・手順表など、児童が好きなイラストを入れて楽しくできるようにした。写真を入れ、視覚的に分かりやすいようにした。
- ・ボルトを板で固定し、机の上で安定して取り組めるようにした。

【使用した教材】

- ・ナット
- ・ボルト
- ・板
- ・手順表
- ・好きなイラスト

(使用感・改善点)

- ・板を挟むことで、机の上で安定して取り組むことができて良かった。
- ・ナットは手本を見せたり、手を添えたりすることで回すことができたが、ボルトが長すぎたため、一つの作業に時間がかかってしまい、集中力が欠けてしまった。レンチ等を用意すると、道具を使う練習にもなると感じた。
- ・「終わりました」の報告は、言葉で伝えるだけでなく、絵カード等もあるともっと分かりやすかった。
- ・集中力が続かない場面もあったので、1列でも良かったと感じた。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

- ・ことば・かず